

## 中国における農業産業化経営の意義と課題

著者	張 日新, 秋山 邦裕
雑誌名	鹿児島大学農学部學術報告=Bulletin of the Faculty of Agriculture, Kagoshima University
巻	57
ページ	49-54
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10232/3724">http://hdl.handle.net/10232/3724</a>

## 中国における農業産業化経営の意義と課題

張 日新・秋山邦裕<sup>†</sup>

(農業経営学研究室)

平成18年8月10日 受理

### 要 約

中国農業において、現在最も活発な議論と取り組みが行われている政策課題の一つが農業産業化経営である。本稿では、農民の市場への参入並びに農産物の生産から加工・流通までに及ぶ構造改革が図られている農業産業化経営推進の目的と特徴を明らかにするとともに、その普及の現状とともに中国政府が示している関連施策と課題について整理した。

キーワード：産業化、農業近代化、構造再構築、「龍頭」企業

### I はじめに

世界の農業発展史からみると、一体化経営、産業化経営を実行するのは市場経済高度発展下の普遍的な現象である。このような経営方式は最初に、1995年代にアメリカで生まれ、それから、西欧、日本に伝わってきた。人口が少なく土地が多いアメリカやオーストラリアであれ、人口が多く土地が少ない日本や韓国であれ、またフランスやドイツなどのような先進国であれ、共通して農業化経営は展開している。

中国では、都市地域における急速な経済発展の一方で、農村地域では農家の生活水準が相対的に低下するなど、都市と農村との格差問題がますます深刻化している。この問題の解決を図るために、中国政府は、国内の農業構造調整を行い、農産物の高品質化および生産・加工・流通の一体化を通じて付加価値の実現を図るべく農業産業化政策を推進してきた。その推進過程で、中核的役割が求められたのが、「龍頭」企業と称するアグリビジネス企業であるが、そこでは企業と農家との連携を通じて、農業近代化の促進や農家の所得向上が期待されている。

本稿では、改革開放後の中国における農業産業化経営を取り巻く制度・政策的環境の変化を捉えた上で、農業産業化政策の有する意義と課題を明らかに

している。

### II 農業産業化経営とは何か

中国の農業産業化経営とは、市場に向けて、家族請負経営を基盤とする「龍頭」企業とさまざまな仲介組織が中心となり、経済利益のための現地の資源開発を行う農業の中核事業と中核製品を確立させるという経営方式である(引用文献(2)の第四章・第1節)。即ち、農業再生過程における生産前、生産中、生産後のセクションを結びつけ、栽培・飼育・加工と生産・供給・販売、貿易・工業・農業の一体化経営を行い、分散した農家小生産を専門化大生産へと変化させることになり、システム内部の有機的な結合、相互促進と「リスク共同負担、利益共有」という企業化経営体制をつくるが、資源の適正化配置と農産物の付加価値の創出、高効率化を現実する。これは中国の農業経営体制にとって大きな変革であり、農業組織形態と経営体制の再創造にあたる。簡単にいえば、農業産業化経営は市場経済条件のもとで、各種の利益メカニズムを通じて、農業生産の全過程の各セクションを完全に一つの産業システムにするものである。それを「地域化位置、一体化経営」と呼ぶ人もおり、その概念は1950年代初期に西側先進国

<sup>†</sup> : 連絡責任者：秋山邦裕 (鹿兒島大学農学部 生物生産学科 農業経営学研究室)

Tel : 099-285-8623, E-mail : akiyama@agri.kagoshima-u.ac.jp

ではじまった農業一体化 (Agricultural Integration) の過程で形成された農業総合経営あるいは農業総合企業 (Agribusiness) と類似点している。ただし、誕生の背景、歴史的役割、具体的形式などには違いがある。

農業産業化経営の実質とは一体化という経営方式を通して、農産物の生産、加工、流通の有機的な結合と相互促進というメカニズムである。農家と市場の有効な連結を実現し、農業が商品化、専業化、近代化へ転換するように促すことにより、農業利益の最大化を実現するということである。また、生産と流通を一体化する産業化経営の推進は、加工企業と大手流通企業 (スーパーマーケット、配送センターを含む) および農業協同組合が農家と提携することを促進し、リスクの共同負担と利益の共同享受を通じて、農家の事業領域の拡大をはかると同時に、生産農家により大きな利潤を獲得させることができる。典型的な農業産業化経営は「会社+基地+農家」、「会社+協同組合+農家」というモデルがある。そのようなモデルのメリットは産業チェーンを延長することにより、大幅な付加価値増と効率アップ、外部市場との関係を内部化、中間階層の減少、取引コストの節約が可能となることにある。農産物の生産、加工、流通における利益を合理的に配分することによって、生産・加工・流通の各段階で秩序が保たれる。さらに緊密かつ強固な生産・流通の協力関係の確立により、市場変動によるリスクが減少される。

### Ⅲ 農業産業化経営の展開及び問題点

#### 1. 農業産業化政策展開の階段

農業産業化経営は中国の農民と末端組織の幹部が作り出したものである。農村で家族請負経営をもとにし、統一と分離を結合させた二重経営体制を実行してから、農民の積極性が大いに引き出され、食料の持続的増産の状態が実現した。しかし、農民にもいくつかの新しい困難が生じた。主として次のようなものがある。まず、何万とある小規模経営体はスムーズに国内外の大市場に適応しにくくなり、多くの農民は農業を発展させる時に自然災害と市場メカニズムという二つのリスクに直面する。また耕種業、養殖業は生産物の販売だけ行い、加工はしないので比較利益率が低い。そこで、これらの問題を解決すべく、改革開放後における中国の農業構造改革

は、以下のように展開してきた。

#### 農産物直接統制制度の緩和期 (1978 - 84)

一部の地方では「高产、良質、高效率」農業の発展と社会化のサービス体系の整備から着手し、農業の関連セクションを結びつけて「サプライチェーン」式の産業組織とサービスの実行を試みた結果、「生産・加工・流通の一体化」の経営組織が相次いでつくり上げられ、農業産業化経営が実現した。

#### 農産物生産・流通への市場経済導入期 (1985 - 95)

農村ではじめてこのような実験を行ったのは山東省「潍坊市」の諸城県である。諸城県は対外貿易会社を「龍頭企業」とし、プロイラー養殖産業をおこすように農民を指導した。企業は基地をつくったが、何年も経たないうちに何十万羽ものプロイラーの生産・加工・販売の規模をもつ企業グループに成長した。これらの企業の経済利益、社会利益は著しく高まり、生産者と消費者から非常に歓迎された。諸城県政府はこの成功事例としてまとめ、全県の各業種が「商品経済大連合」を展開するように指示し、栽培業・飼育業・加工業と生産・供給・販売が一体となった経済発展を支持する方針を打ち出した。

#### 市場経済の前面的導入による農業生産力の向上期 (1995 - 2000)

中央政府は農業産業化経営を非常に重視した上で、具体的な指導を強めた。1997年9月、共産党第15回大会の報告では、積極的に農業産業化経営を進展させ、農業を商品化、専業化、現代化へと転換しなければならぬと明確に指摘した。1998年10月に第15回中国共産党中央委員会第3次全体会議で可決した「農業と農村工作に関する若干重大問題についての決定」には、「家族請負経営をベースとするうえで積極的に農業近代化を実現する具体的なルートを探すことは、農村改革と発展の重大な課題である。農村に出現した農業産業化経営は部門、地方と所有制の制限を受けず、農産物の生産、加工、販売などのセクションを一つにして、有機的結合、相互促進の組織形態及び経営体制をつくり上げた。このように、家族経営の基盤を弱めることなく、農民の財政権益を侵すことなく、有効に何万とある農民の市場への参画、現代科学技術の運用と経営規模の拡大などの諸問題を解決し、農業経済利益と市場化程度を高めることができる。これは、わが国の農業が一步一步と現代化へ歩む現実的ルートの一つである」と指摘した。このように、農業産業化経営はもはや21世紀の中国農業と農村経済発展の重大な戦略になったの

である。

農業産業化の本格的推進期（2001 - ）

農業産業化経営は順調に発展してきたが、とりわけ先導企業が重要な役割を發揮していることが各地の実践から明らかになっており、その先導企業の多くが龍頭企業であった。そこで龍頭企業を農業産業化経営の柱に据えて発展させるという方針が示された。2001年10月には、国家が指定する重点龍頭企業151社のリストを発表し、農家の市場参加をリードする役割を担わせている。そして、2002年6月には、農業部、国家発展計画委員会、国家経済貿易委員会、財政部、対外貿易経済合作部、中国人民銀行、国家税務総局、中国証券監督管理委員会、中華全国供销合作総社という9部門の共同作業により、国家指定の重点龍頭企業の認定に関する法規が制定された。これは、第10次5ヵ年計画期間年中（2001年 - 2005年）に龍頭企業を500社まで拡大するための法律整備の一環である。

## 2. 農業産業化経営の現状

### (1) 発展の概況

農業部の農業産業化指導委員会事務局が整備している全国28省、自治区、直轄市を対象とする「中国統計年鑑」によれば、1998年末まで、各種の利益によって連合した農業産業化経営組織は3万344組織があり、総生産額は4902億元、納税は476億元、生産額税率は9.72%であったが、明らかに一般の農産物加工企業より高かった。連合に加わった農民は3900万戸あまりに達し、全国農家総数の約15%を占めていた。農業産業化経営に参加した農家は平均的に800元余り増収した。農業産業化経営は新しい就職ルートを創出し、1998年だけで572万人の農業労働力を吸収した。都市郊外にある一部の農業産業化経営の龍頭企業は「都市にいるリストラ職員の再就職先の一つになった。農業産業化経営を経営類型によって区分すれば、龍頭企業を中心とする連鎖タイプは1万9936あり、全体の65.7%をしめている。また、仲介組織を媒介とする連合タイプは8024あり、全体の26.4%を占めている、そのほかのタイプは2384組織、7.9%となっている。利益配分によって区分すれば、契約と書面協議による利益関係は約80%であり、株式合作制を実行するのは約11%であり、合作制を実行するのは9%である。立地分布からみると、東部沿海地方は1万4588あり、48.1%を占め、中部地方は1万3558あり、44.7%を占め、西部地方

は2198あり、7.2%を占めている。品目別にみると、1996年に食糧油脂糖類は21.0%、果物野菜類は26.7%、牧畜類は25.8%、水産類は6.5%、そのほかは20.0%を占めていた。1998年に食糧、綿、油などの主要農産物は価格下落の影響を受けて、産業化経営の実施が難しくなり、発展も遅くなった。それに対して、牧畜、水産、野菜、果物などの産業は発展がはやく、特に一部の特産品部内が急速に発展した。1998年に特色ある製品を生産する産業化経営組織は4388あり、総数の14%を占めたが、1996年と比べて85%増加した。

### (2) 発展の類型

中国の農業産業化経営は、これまでさまざまな組織形式をつくり上げたが、つぎのような類型に分けることができる。

#### 主導産業促進型

中核産業を中心に関連産業をおこすタイプ。このタイプは現地資源の利用、特色ある農産物商品から始まる。

#### 市場帶動型

市場の需要を駆動力とするタイプ。このタイプは専門市場あるいは専門市場センターを頼りにし、市場の影響力によって地域專業化生産へと導き、生産販売一体化経営、生産規模の拡大、産業優位性の確保、貿易コストの節約、運営能率と経済利益の向上をはかったものである。

#### 「龍頭」企業帶動型

中核企業を中心に関連産業をおこすタイプ。このタイプは会社あるいは集団企業を主導し、農産物加工、流通の企業が「龍頭」となり、1種類または何種類の製品生産、加工、販売に関する、契約関係を通じて生産基地や農家が有機的な連合する、「リスク共同負担、利益共有型経済共同体」を形成するというものである。

#### 仲介組織帶動型

仲介企業を媒介にして関連産業をおこすタイプ。このようなタイプは政府専門技術部門、地域合作経済組織、専門協同組合及び各専門技術協会などの仲介組織をもとにして、仲介組織の資金、情報、技術、販売などの優位性を利用し、農家に多種多様なサービスを提供する。一部の地方では加工、運輸、販売企業を建て、直接に農家が市場向けに生産を行うように指導し、鮮明な大衆性、専門性及び相互互惠と相互援助の性質をもたせている。仲介組織帶動型にはさらに三つのタイプがある。一つめは専門技術サービス組織帶動型である。二つめは農業協同組合型で



ある。三つめは専門農協サービス型である。

### 3. 農業産業化経営の推進対策

現在、中国の農業産業化経営は各地で点から面へと発展してきたので、前途が非常に明るい。しかし、総体からいえば、この新しい経営方式の成長と拡大には相当長い過程にわたる十分な努力が必要となるのである。農業産業化経営の発展にはいくつか解決を急ぐべきの問題が残されている。

第一は、政府行為の問題である。例えば、分割管理体制との利益関係は政府と市場部門がマクロコントロールを行う時にそれが妨害され、農業産業化経営の合理的配置に影響する。第二は、市場要素の成長問題である。主として、全国統一の大流通と大市場がまだできておらず、地域閉鎖、市場独占などの行為が資源の適正配置を妨害するので、農業産業化経営において重複建設をもたらしめているのである。第三は、農業産業化経営内部の組織機能、運営メカニズムの問題である。主として、内部メカニズムは強勢グループの利益へ傾く現象がある。地位の差がおおきいので、利益の不均衡を引起し、農家と「龍頭」企業の間にてきた協調、信頼、相互互惠、安定の関係に影響する。これに対して、以下（参考文献の2）の対策を講じるべきである。

農業産業化経営を推しすすめる時に基本原則を守るべきである。科学的に企画し、合理的配置と構造をつくり上げる。農業産業化経営を促進する力を強める。農業産業化経営を市場の育成、サービスの社会化と有機的に結合させる。郷鎮企業の中核的な役割を發揮し、「龍頭」企業の機能を強める。農民自身の合作組織をつくり、農民が農業産業化経営の中で、得るべき利益の獲得を保障する。

科学的で有効な農業マクロ管理体系の確立を積極的模索する。

### 4. 農業産業化経営の問題点

現在中国の農業産業化経営は初期段階にあるといわなければならない。ものの、次のような問題点は指摘しておかねばならない。農業産業化経営組織は農家を関係づけた比率がまだ低いために、そのカバー範囲をさらに広げる必要がある。大多数の農産加工工業の製品は加工度合、産業チェーンが短く、科学技術が依次であるほか、付加価値の創出の幅も小さい。現在、中国の農産物加工工業の生産額は全農業生産額の約80%を占め、そのなかで、食品

加工工業の生産額は農産物加工工業生産額の40%を占めている。いずれも先進国レベルよりかなり低い。発展の傾向からみれば、両者の比率は法則的に上昇の傾向を呈しているが、上昇のスピードは遅い。これは中国の農産物加工工業の総合素質が低かったからである。中国の農産物加工企業は技術設備、加工工藝、製品品質標準においても、企業規模、技術力および環境保護などの諸方面においても、世界先進レベルとの間に非常に大きな差があり、主に商工業においては、「龍頭」企業の牽引力による農業産業化経営の発展はこの現実を乗り越えることができない。

## IV ま と め

以上、農業産業化経営の展開及び問題点の総括により、中国における農業産業化政策推進の意義と課題について、以下の点が確認された。

農家は、龍頭企業との契約取引によって、安定した販路が確保され、地元市場では販路も不安定でかつ価格変動も激しい高品質な農産物の生産が可能となり、結果として経営の安定・所得の向上に結びついている。契約を通じて、新しい品種（種苗）、生産技術が供与され、農業生産構造の近代化や効率的転換が可能となっている。龍頭企業の社会的認知度や信用性を利用して、国際市場への参入が可能となっている。生産基地に隣接した加工工場の誘致や企業の農業参入による労働力雇用の増加が、農業から放出された余剰労働力を吸収するとともに、農村の都市化の進展にも一定の貢献をなしている。

一方で、以下のような問題点・課題も指摘できる。

輸出型の大規模龍頭企業の多くで品質管理の容易な自社生産基地を確保する動きが拡大するなかで、農家との連携のあり方が改めて問直されている。

農家との取引価格が市場価格にスライドして設定される場合、企業には原料価格を抑えることができるメリットがある一方で、農家の利益と経営の安定が十分に保障されない。龍頭企業とくに、加工型龍頭企業の発展にとっては、多様化する消費者ニーズに対応し、企業間の連携をより緊密に図る必要がある。

以上のように、中国における農業問題の解決に向けて、龍頭企業の育成を柱とする農業産業化政策の推進は一定の貢献をしてきたが、今後はその推進範囲を東部沿海地域だけでなく、発展の遅れている中西部地域へと展開することで重要であろう。

## 引用文献

- [1] 任文侠：現代中国の企業経営 文真堂（1991）
- [2] 姜春雲「現代中国の農業政策」家の光協会（2005）
- [3] 巖善平：中国農村・農業経済の転換 到草書房（1997）
- [4] 石敏俊：中国における農業経営の垂直的組織化：理念と実践 山東省「農業産業化経営」の事例を中心に 筑波大学農林社会経済研究17（2000）
- [5] 中国統計年鑑：中国統計出版社（1996.1998）
- [6] 中国農業部ホームページ

## Meaning and Topic of the Agricultural Industrialization Management in China

Rixin ZHANG and Kunihiro AKIYAMA<sup>†</sup>  
(*Laboratory of Farm Management*)

### Summary

In the Chinese agriculture, presently the most active argument one of the policy concern where the match is done is agricultural industrialization management. As with this manuscript, from entry to the market of the peasant and production of agricultural products it reaches to process circulation and it makes the purpose and feature of the agricultural industrialization management which designates structural reconstruction as the stairway clear, it introduced concerning developmental measure and the topic which present condition and the Chinese government which show quick spread have shown.

**Key words** : Industrialization, Agricultural modernization, Structural reconstruction, Leading enterprises

<sup>†</sup>: Correspondence to: Kunihiro AKIYAMA (Laboratory of Farm Management)

Tel : 099-285-8623, E-mail : akiyama@agri.kagoshima-u.ac.jp